

## 第1回成人式典検討委員会会議録

平成23年4月27日(水)

午後6時～午後8時

グランシップ905室

出席者：阿部耕也委員、瀧義弘委員、遠藤日出夫委員、青木孝輔委員、鈴木和樹委員、  
加納宏紀委員、杉山大祐委員、那須野 隼委員 以上8名

事務局：子ども青少年部長 竹下次郎、青少年育成課長 伊熊珠江、統括主幹 久保田 哲  
副主幹 田中 克征、副主幹 松田 毅 以上5名

最初に推薦により委員長に阿部委員を選任、その後、職務代理者として委員長が瀧委員を指名  
(事務局)

3回の会議ということで回数が限られている。1回目では現在の課題を明確にしたうえで、全体の  
方向性についてご意見いただきたい。

(阿部委員長)

会議の間に時間があるので考えをまとめて次の会議に臨んでほしい。

[成人式典検討委員会]

(遠藤委員)

成人式の本来の目的を考えることが大切。

(瀧委員)

3回あるそうだが、次回の日程を早めに教えてほしい。

[現行方式、法令、通知、過去の経緯]

(青木委員)

1部は市の主催というが、実行委員会も入っているのか。

(事務局)

主催については1部は市、2部は新成人による実行委員会。1部の開式の言葉と閉式の言葉は実行  
委員会役員にお願いしている。

(遠藤委員)

政令市の予算はどうなっているか。

(事務局)

現在データがないため、調査して後日お知らせする。

[政令市及び県内市町調査、特徴ある市町の開催状況]

(各委員から)

七尾市の出席率が96%は大変よいことである。

〔審議〕

（遠藤委員）

市の式典の参加率が対象者の16%は低い。この低さをどう考えるか。

それから、静岡市は広い。山間地の例えば井川地区からだとも困難なのでは。村をあげて地域で祝う方法もあると思う。参加しやすいのが大切ではないか。

（鈴木委員）

井川など山間地の出席率はどうか。成人式は新成人の大人としての自覚を促す場と考える。

来るには何かきっかけが必要ではないか。新成人のマナーが悪いと聞くが、会場に少年少女がいると大人の自覚をするのではないか。

（事務局）

市主催の式典は、山間地のデータはないが、区別でいうと、葵区が30%、駿河区が20%、清水区が5%。

駿河区は県外から大学に通っている生徒が、正月休みに帰省先で成人式に参加しているため、葵区より参加率が低く、清水区は地区成人式に参加していると考えられる。

また、少年少女の参加については、グランシップでの式典ではボーイスカウト、ガールスカウトなどがボランティアで受付をさせていただいている。

（青木委員）

出席率を高くすることが大切。参加者を感動させるような話をしてもらいたい。若い人に聞きたいが、雰囲気重いと感じることはないか。

（加納委員）

私は実行委員として2回参加した。友人には、清水区在住で葵区の高校に通った人がいて、どちらに参加してよいのか悩んでいた。また、グランシップでは入場料が1部無料、2部1,000円となっており、その差はなぜと聞かれることもあった。

（杉山委員）

2部はコンサート、恩師のビデオレターなど和気あいあいとした雰囲気であった。1部が厳かでない、バランスがとれないと思う。新成人は式典に参加しないと自覚が生まれえないと思う。2部については、実行委員が行うだけで満足している部分があり、評価されているかまで気にしていない。なるべく多くの新成人の参加する企画をもっと練っていく必要がある。

（那須野委員）

1部式典はあれでよいと思う。式の意義を考えると、同窓会だけというのはどうかと思う。芝生広場で騒ぎすぎている若者がいた。何のために式典に参加するのか、せっかくの機会なので、大きなイベントをする意義をしっかりと考え、自覚と責任、感謝の気持ちをもってほしい。

（阿部委員長）

子供が式に参加したが、旧友に会えるのが何より楽しそうだった。新聞記事にもあったが、着物業界にとっては着物を買ってくれる大事な機会。

通過儀礼的な意味で、式をクリアしないと大人になれない場所もある。那覇で成人式の様子を見ることがあったが、最初から報道機関が待ち構えていて、騒動を期待している様子であった。若者も式典で目立って一人前と思っている節がある。

自分達の式は自分達の手で行うと中身が濃くなる。

(瀧委員)

市のお金を使って同窓会を行うのはどうかと思う。ただし、そういう場を設けてあげる必要はあると思う。

(遠藤委員)

出席率を増やすということと言うと分散の方がよいと思う。人を集めればよいのか。家族で祝うという方法もあると思う。やり方云々よりも成人式とはどうあるべきかとまず考えるべきだと思う。しっかりしたコミュニティにするためにどうするかということが大切。

(鈴木委員)

地域で体育部長をしている経験から最近ではコミュニティの力が弱い。地域で顔が分かるようになれば出席率も増えていくと思う。

(阿部委員長)

区によってそれぞれ雰囲気が違う。静岡市と清水市が合併して10年経とうとしているのに、バラバラではせっかくの合併の意味がない。合併を一つの絆にするアイデアがほしい。

(青木委員)

市全体で共通の思い出を作ってほしい。振り返った時、「懐かしいなあ。」とか。共通の成人式をやればそうなるのではないか。

人を呼ぶには七尾市の例にあるようにテーマが重要。講演会は有名人だからというだけではダメで、人を選んでほしい。

(阿部委員長)

いくつか意見が出てきたが、次回までしてほしいことはあるか。

(伊熊課長)

出席率は確かに大切である。また、同窓会を否定する訳ではないが、式に参加するにあたっては、成人としての自覚と責任を持って臨んでほしい。まだどこかに、旧清水とか、旧静岡という意識があるが、一つの市になったのだから、一体感を持てるような式典にしていきたい。

委員の皆さんはそれぞれの団体を代表して出席してくださるので、なるべく多くの人に意見を聞いてまとめてほしい。

(阿部委員長)

事務局では今回の会議録を起こして、各委員に送ってほしい。次の会議まで時間があるので、委員会で出た課題を受けて自分の考えをまとめてほしい。

(松田)

次回は委員の多くの皆さんの希望どおり、6月29日(水)午後6時から行う予定。

※参考 市式典参加者 事務局調べ

中学校区	住民登録者(10/1)	参加者	出席率
梅ヶ島	5名	3名	60%
井川	4名	1名	25%
大川	7名	1名	14%
大河内	6名	1名	17%
玉川	18名	5名	28%

## 第2回成人式典検討委員会会議録

平成23年6月29日(水)

午後6時～午後8時

清水庁舎301室

出席者：阿部委員長、遠藤委員、青木委員、鈴木委員、加納委員、杉山委員、那須野委員

以上7名

事務局：青少年育成課長 伊熊珠江、統括主幹 久保田 哲 副主幹 田中 克征、副主幹 松田 毅

以上4名

### 遠藤委員回答

回答意見は、葵・駿河区は一箇所、清水区は地区別の現状のとおりとした。清水区の自治会長会議での考えである。地区での開催はまちづくりの基本である。市域が広すぎるので、市全体で一本化すると人が集まらないのではないのか気になる。

現状の一箇所開催は1月3日であり、なぜ成人の日（1月第2月曜日）でないのか。また敬老会に比べて予算が少ないのも気になる。

個人的には、一箇所開催がよいと思うが、自治会の総意は現状どおりであった。どちらを選択するにせよ最終的には思い切って決めるしかない。

若い人が参加したくなるような式典にしてほしい。

（阿部委員長）

参加したくなる式は当然だが、具体的な案は難しい。

### 青木委員回答

一箇所ですべて感を持つのが大切。内容が重要で、絶対参加してみたい式を行ってほしい。厳粛であり、内容の濃いもの、また同じ市の新成人として共通の感覚を持つものをやってほしい。

市域は広いというが、梅ヶ島でも蒲原でも1日だけの式典なのだから遠いと言わずに、参加してほしい。

（那須野委員）

回答に一箇所だとコスト削減できるというのが理由は？

（青木委員）

看板、警備など一度に集中して行った方が経費がかからないからである。

また、広報については、新しいメディアであるインターネットやソーシャル・ネットワーク・サービスなどの利用を薦めたい。情報は拡散していくからだ。動画を使えば魅力をアピールできる。

（加納委員）

新成人には自覚をもって参加してほしい。ポスターを作成したが実行委員会も市もPRが足りない。ラジオ、テレビ等をもっとやるべきだ。

（阿部委員長）

内容についてであるが、ソフトの部分が難しい。ある人をゲストで呼びたいとする。市が呼ぶのか、実行委員会が呼ぶのか、結果は同じでも、成り立ちが違う。誰が準備をして、誰が協力をするのかで大分違ってくる。集客にも影響してくると考える。

（遠藤委員）

インターネットは不特定多数対象であり、違うのではないか。新成人7千人は特定されている。清

水区ではすぐに情報を広めることができる。

(加納委員)

今の大学生の現状では、ツイッターを使うことが多い。短い言葉で不特定多数に伝わるが、特定の対象者にも情報は伝わる。

**加納委員回答**

1部は現状をベースに考えた。新市としての一体感が必要だと思う。

2部は、現状を変えるという意味で選んだ。距離的な配慮と区を意識した。今は全市と言いながら葵区・駿河区がメインになってしまっている。また実行委員が特定の学校に偏っている。2部終わってから場所を移動して同窓会に参加するという考え方である。

(杉山委員)

メリットはどこにあるのか？

(加納委員)

現状の実行委員会は一部高校OBがほとんど身内で盛り上がってしまっている。

区別に新たに作るのがよいのではないか。

(青木委員)

区単位でも規模が大きい。実行委員会に参加する人は意識が高いが、それ以外は私とは関係ないという意識であると思う。同窓会とか自治会とかセクショナリズムは止めていくべきではないか。

**鈴木委員回答**

1部は必ずやるべきである。静岡と清水が合併して大分経っているが、未だに静岡、清水の意識が強いのに疑問を感じる。蒲原、由比地区も同じである。バラバラに行くと費用もかさむ。ただし参加率のことは心配である。何かシカケが必要である。

2部は一箇所開催を選んだが、区ごとの開催も考えた。恩師の紹介も関係のない参加者が多いのは。旧友と会う要素も大事だが、同窓会を市で用意するのはどうかと思う。また実行委員も特定校OBに偏らず広く募ったらどうか。

厳粛な1部、和やかな2部とした。他市の成人式を調べてみた。特色を出していた。振り返って静岡市の特色って何だろうと考えると行き詰ってしまった。

(遠藤委員)

成人式は本来どうあるべきかと考えることが先決。最初に市の考え方を示すべきだ。清水区も今は同窓会的要素が強かったが、元々は違った。

(事務局)

市としては一体感のある式を目指している。ただし、行政が一方的に開催方法を決めるのではなく、広く意見を聞くという趣旨で検討委員会を設置したので皆さんの意見をお聞きしたい。

(鈴木委員)

出席率と一体感をどう考えていったらいいのか。

(事務局)

出席率については高ければ全てよいということはない。自覚を持って参加する人を歓迎したい。

(青木委員)

本当は全員集まりたいのが事実であると思う。金銭面よりソフト(内容)が大切である。じっと聞き入る話がよい。

### 杉山委員回答

1部、2部どちらも一箇所開催を選んだ。政令市であることを実感する式を開催してほしい。ただし市はこういう想いで式を行うということを伝えるのは困難ではないか。

一箇所であるのは旧市町の区分がなく、よいと考える。

出席率についてであるが、自分では式に参加するのは当然と考えていたが、大学で周りの友人に聞いたところ思ったほど参加していない。時代とともに意識が変化してきている。どうやって宣伝していくか、ソーシャル・ネットワーク・サービスをどう効果的に使うか考えるべき。

(青木委員)

今は個人主義であり、自由である時代。何らかのメリットがあれば来てくれるはずだ。

(鈴木委員)

学生委員に質問だが、誰に祝ってほしいのか。

(杉山委員)

他の人に祝ってもらいたいということではなく、皆で会う会（同窓会的なもの）と考えている。

### 那須野委員回答

1部、2部とも区別にしたのは参加率を上げること、つまり参加しやすい環境を考えたからである。ただし、区でまとまるのは長所であり、短所でもある。市としての意識を持つことがないからである。周りの友人の8割は旧友に会えるのが懐かしいと言っている。感動する内容であること大切である。ツイッター等でPRするのもよい。全市一箇所でやるからといって、若者の意識が本当に変わるのだろうか。

各区で実行委員会を立ち上げた方がよい。

(阿部委員長)

自分の子どもについて言うと社会から祝ってほしいというより、自ら祝う方法を考えたいと思っていたようだ。国がやりなさいと言うからやるのでは意味がない。予算が増えるから嬉しいといことではないであろう。

(加納委員)

誰に祝ってほしいという話が出た。20年間育ててくれた親や親せきへの感謝は持つべきである。旧友に会えるのは大きなことである。ただの同窓会以上と言えるのは、他者と比較することで成長ぶりも分かるし、自分の今のステータスも確認できる。

(遠藤委員)

地域主導でやる良さもある。

(青木委員)

一箇所でやって、例えば隣の人と「私は蒲原」「私は井川」と話が弾んだらいい。何十年かして再会して「あなたとは成人式の時に一緒に参加した。」などと将来に結びつけばいい。

(阿部委員長)

私の感想であるが、なぜ案3（1、2部とも新成人実行委員会主催）の回答がないのか不思議である。新成人が主役というアイデアはよいのでは。

(杉山委員)

実は考えたが、厳粛な式も必要なので実行委員会でやるには難しいと思った。

(加納委員)

実行委員も1部に参加すべきだ。市と話し合うべきだ。

(阿部委員長)

案3を考えていた。新成人には1部・2部両方に関わってほしい。卒業式を例にすると送辞、答辞があるが、1部は周りから新成人へという点で送辞、2部は新成人から答える点で答辞に該当する。旧清水市との合併当時20歳だった人や、当時生まれた子どもが参加すれば、合併し新市になった点が注目されるのではないか。

(遠藤委員)

私も実行委員会が全部やるべきだと考える。

(鈴木委員)

新方式を始めるとして、最初は欠点があっても年々改善していけばよいのではないか。全体のバランスを考えると、市と新成人実行委員会も協力して共催にすればよいのでは。

(阿部委員)

現状方式では実行委員だけがいい経験をしている。

式典運営については、市が静かにさせようと押さえつけようとすると、逆に荒れてしまうと思う。意見が分かれているので、全市一箇所がよいか区ごと開催がよいか確認したい。清水区の地区方式がよいとすると地区開催を葵区、駿河区にも拡大するという話になってくる。

(鈴木委員)

個人体験から葵区、駿河区間で転校が多かったので、一箇所開催の方が両方の友人に会えてよい。

(遠藤委員)

葵区、駿河区は分けるのが難しいから一緒にやって、清水区だけは来年完成の駅前の清水文化センターでやってはどうかと思う。

(鈴木委員)

一箇所であるとして収容能力のある会場はあるか？

(事務局)

新成人人数が7000人弱とするなら、ツインメッセ(7000人収容)なら全員来ても対応できる。ただし、静岡駅からバスで乗換しないといけないので、清水、由比、蒲原方面からは便がよいとは言えない。

(青木委員)

遠くはなるが、何十年経ったときの感慨も大切と考える。

(遠藤委員)

一箇所開催で参加人数を気にしないならいい。

(鈴木委員)

交通の不便さはやり方で克服できると思う。他県での野外音楽祭ではバスを乗り継いで遠くから来る人もいた。実行委員会に由比や井川のメンバーも入ったら応援したくなってくる。

(杉山委員)

式典が自分の身近なことと思わないと参加しない。地元自治会の人でも実行委員会に参加してくれたらと思う。ツインメッセの開催は考え込んでしまうが、全市一本化が良い。

(阿部委員長)

実行委員は特定の地区や高校に偏らないようにすべきである。また、大卒を全て市が決めてしまう

とやる気が削がれる心配があるので、実行委員会で内容も検討していければよいと思う。

(事務局)

例えば会場などは2年前から予約しないといけないなど、制約はあるが、意見を入れていくことは可能である。実行委員会主導で行っていても市の式典と言えないことはないと思う。

(追記)

委員会の最後に各委員に意見を確認したところ、鈴木委員、加納委員、杉山委員が1部、2部とも市と実行委員会との協働での開催(案5・その他の形式)ということに意見を変更。



### 第3回成人式典検討委員会会議録

平成23年7月25日(月)  
午後6時～午後7時30分  
青少年研修センター

出席者：阿部委員長、瀧委員、遠藤委員、青木委員、鈴木委員、加納委員、杉山委員 以上7名  
事務局：青少年育成課長 伊熊珠江、統括主幹 久保田 哲 副主幹 田中 克征、副主幹 松田 毅  
以上4名

(阿部委員長)

最終的に提言書を作りたい。本日の目的としては提言書の前提となる骨子案を作成することである。最初に前回欠席された瀧委員に意見を伺いたい。

(瀧委員)

全市一本化にすべきである。「旧静岡」「旧清水」といつまでも言うのは古い。一本化にしても、出席率などももちろん問題はある。でも、出席率はそれほど重視しなくてもよいのではないか。清水方式で地区で行えば上がると思うが。一本化でやってみてどんな結果になるか見ればよい。

主催は1部・2部とも新成人中心の実行委員と市の協働開催とする案を支持する。実行委員は偏ることなく、由比、蒲原、山間地などいろんな地域の新成人を集めるとよい。

#### 提言書の構成について

(阿部委員長)

提言書では結論だけでなく、経緯にもふれていただきたい。

(鈴木委員)

2番の中の「清水区の同窓会的な式典の開催」は触れなくてもよいのでは。あるいは他の最後に補足したらどうか。配慮が必要であると思う。

(青木委員)

私は今までの経緯を考えると言及すべきだと思う。

提言の中では、成人式に関する法律をたくさん説明するのではなく、過去もめたことなど静岡市の経緯を丁寧に書いてほしい。市民が読みやすい平易な言葉を心がけてほしい。

(阿部委員長)

横浜市の提言※P14の「望ましい式典の内容や運営」に「新成人に、社会参加を促すための仕掛けが必要である」とある。新成人をお客さんとして扱うのではなく、政治に関心を持ったり、年金を納めるべき義務が生じてくるなど社会人としての自覚を持ってもらう場として成人式を重要に考えるべきである。

また、「出席できない新成人に対するメッセージの伝達が必要である」の中で、参加できない人がインターネットを通じて参加することに言及しており、興味深いことである。

また、新成人は清水区から、特に由比、蒲原地区からも実行委員会に関わってほしい。実行委員OBから1部にもぜひ関わりたいとの声がある。これまでの蓄積があるからこそ言えると思う。

(遠藤委員)

市が成人式に何を求めているのかが大切である。清水区の成人式は「まちづくり」をコンセプトに  
おいている。グランシップについては、若者は2部を自由にやっている。

(阿部委員長)

主役は若者で市はサポート役を行う。若者中心で行っているという意思表示になる。1部・2部を  
若者主体の実行委員会が行うからと言って市が丸投げしているとは言えない。委員の集め方や内容  
に市は必ず関わってくる。

オブザーバーとして2分の1新成人が参加するのも面白いのではないか。

清水区地区成人式が「まちづくり」につながっていることは地区開催のメリットであるので、提言  
書に入れるべきである。

(瀧委員)

清水方式だと「まちづくり」にはなるが、一箇所ですると難しいのでは。

(鈴木委員)

「まちづくり」ってどういうことなのだろう。一箇所開催だからと言って「まちづくり」につな  
がないということはない。運営に参加して議論する過程で大人の自覚や地区への思いが目覚めるこ  
ともある。若者だけが実行委員に入るのではなく、地区の自治会長が入ってもよい。

(瀧委員)

一箇所でする場合、会場は新成人全員(約6,800人)収容可能なところはあるか

(事務局)

ツインメッセが約7,000人 グランシップ大ホールが約4,600人、中ホールが約1,200人  
で併せて5,800人ほどである。

(瀧委員)

ツインメッセは交通アクセスが不便である。

大画面を使い、グランシップ大ホールと中ホールでの合同開催も考えられる。

(鈴木委員)

一箇所でも現実的にできないことはない。

(青木委員)

広報の段階からインターネットを活用すべきと考える。3月の大震災の後、被災地の首長が惨状、  
支援をUチューブを使って訴えたことに対して、世界各国から多数のアクセスがあり話題になった。

(阿部委員長)

式典はわずか1日のみの行事であり、その前後にどんなことをやるかが大切である。イベント  
はいい考えである。イベントをやろうとする静岡成人式実行委員長は頼もしい。イベントの広  
報手段としてだけでなく、イベント自体を広報してほしいし、提言でも述べてほしい。

成人式では若者が騒ぐことが話題となるが、頭から押さえつけようとするから抵抗するのであって、  
任せてあげればやることはやってくれるはずである。信頼が大切である。

(杉山委員)

3番の「成人式に求められる視点」が重要である。中でも「大人としての自覚とともに社会参画を  
促す場としての式典が必要」と「より多くの若者が能動的に運営に参加する必要がある」は特に大  
切である。後者については、自分のこととしっかり認識するべきだ。また、多くの新成人が能動的  
に参加していると実感できるように実行委員会には特定高校のOBでなく広く募ったメンバーを

入れるべきだ。

(加納委員)

提言では、日付けのこだわりに触れてほしい。なぜ1月3日に開催しているのか、訴える必要があると思う。

(事務局)

理由としては、帰省している学生が参加しやすいなどの理由から、元々新成人主体の静岡成人式で1月3日に行っていたところ、市が開催を併せてきたという経緯がある。翌週に比べて会場予約しやすいという点もあげられる。

(遠藤委員)

杉山委員の意見のとおり参加する者にも自分のことと思わせることが重要だ。

(阿部委員長)

プレイベントも広報してほしい。

大道芸W杯では主催者だけでなく、ボランティアがとても楽しそうに協力しており、テレビなどでそうしたニュースを見ると興味をそそられる。本番の日に楽しさが分かっても参加者を増やすための事前広報としては遅い。プレイベントで十分PRできる。

(遠藤委員)

最初から上手くはいかない。回数を重ねないとうまく運営できない

(阿部委員長)

提言で書いてほしいのは、平成25年1月は新しいことをスタートするきっかけであって、終着点ではないということだ。

(遠藤委員)

自治会の予算でみると敬老会に比べて成人式は安すぎる。

(瀧委員)

横浜市提言書では8割超の若者が成人式に参加したがつている。提言書を考えるうえで横浜市の例はとても参考になる。

(阿部委員長)

市は違うけれども同じ課題があって解決しようとする点は共通だ。

(青木委員)

横浜市が提言を作成した平成16年からみると現在はIT化が進んでいる。広報が大切なので、プレイベントをやったり、動画で中継を行ったりするのもよい。

(杉山委員)

4番「静岡市にふさわしい成人式運営形態の検討結果」を5番「静岡市にふさわしい成人式典を実現するために克服すべき課題」の後にしたらどうだろうか。5番をふまえた結果として4番で結論を述べるのが流れとしてよいのでは。

(事務局)

2番「現在の課題」で既に課題は説明しており、5番は理想型の結論を出したうえで、まだ意識しなければならない課題があるという構成である。

(阿部委員長)

4番に結論に至るまでの経緯を載せてほしい。今後構成を基に提言書にしていきたい。

※参考 横浜市 これからの「成人の日」記念行事のあり方について（提言）  
「成人の日」記念行事あり方検討委員会 平成16年9月作成

## 第4回成人式典検討委員会会議録

平成23年9月1日(木)

午後6時～午後8時

青少年研修センター

出席者：阿部委員長、瀧委員、遠藤委員、青木委員、鈴木委員、加納委員、杉山委員 以上7名

事務局：青少年育成課長 伊熊珠江、統括主幹 久保田 哲、副主幹 田中 克征、副主幹 松田 毅  
以上4名

(阿部委員長)

提言案に修正、変更あれば意見をほしい。提言案は文章だけでなく、図、絵などアクセントがあつてよいと思う。

(事務局)

参考資料で添付したいものがあれば薦めてほしい。

(青木委員)

P10の「バーチャル」成人式という言葉が気になる。日本語として認知されているか気になる。

(阿部委員長)

「仮想的」「疑似的」というところを人によっては意味を誤解するかもしれない。

(青木委員)

自分でも確認するが、事務局でも調べてほしい。

(阿部委員長)

P10の「バーチャル成人式」と「プレイベント」の順番を逆にしてほしい。「プレイベント」は直接参加率の向上につながることから、先に「プレイベント」が「バーチャル成人式」の前にくべきではないか。

(遠藤委員)

個人としての意見もあり、清水区自治会代表としての立場もあり、難しい部分があった。振り返ると成人式とは何かという点をもっと議論したかった。市として伝えたいことをもっと言ってほしかった。清水区の自治会では、今の成人式の運営の負担が多いと思っはいいない。

(阿部委員長)

提言書はよくまとまっている。ただし、平成25年1月の開催に向けて、具体的にどう反映していくのか難しい。

P2のこれまでの経緯では成人式で問題を生じたことを対症療法的に行つたことを述べている。騒ぎを抑えるにはどうしたらよいのか。新成人が自ら発起して行うことが大切ではないか。旧静岡市、旧清水市等の論点も大事である。基本に立ち返ってみるべきである。

(遠藤委員)

問題のあつた当時とは社会情勢が変わっている。若者が自主的にやることは大切だが、それだけで十分か。市は何をしてほしいのか明示しなくてよいのか。私は地域力を強化することこそが大切だと考えている。

(事務局)

若者が勝手にやるということではなく、市はサポート等役割をしっかりと行っていく。参考に蒲原地区では、新成人が実行委員会を自主的に行っている。どこからか選ばれてやっているのではなく、自ら手をあげたと聞いている。

(阿部委員長)

成人式単発で終わりではない。実行委員として組織の運営に関わり、式典が終わっても相談役になったりして代々引き継いでいく体制が地域力を上げることに繋がっている。

(事務局)

清水は以前、成人式運営に関わるメンバーは青年団などが中心で、将来は自治会に関わっているそうである。こうしたつながりが大切である。

(遠藤委員)

つながりを持たせていくことが大切である。今は先輩後輩の関係もなくなっている。

(事務局)

つなげていくためには何らかの仕掛けも必要であると思う。

(阿部委員長)

P9 の実行委員会のメンバーについては、幅広い層の参加が必要とある。横の関係だけでなく、年齢が前後の世代、いわゆる縦の関係も必要なのではないか。

P4 中、過去問題があった当時のことは書きにくい部分もある。端的に言う「暴れること」への対応である。大人から押し付けられるのではなく、若者自ら企画、運営を行うと自覚を促して、問題は生じにくいのではないか。

(遠藤委員)

P4 の●「静岡市としての一体感がない」は「一体感が持ちにくい」に変更すべきではないか。自治会活動でも全市で一緒に運動会なんかをやるとまとまりがでる。

(事務局)

市全体で少しずつ整えているところである。

(青木委員)

P9 運営には全市民が関与すべきではないか。人生の先輩として意見するのも大切。新成人が相談できる体制も必要だ。軌道修正もできる。高齢の方も入れたらどうか。市もバックアップしてほしい。

(事務局)

市も広報活動や専門家を紹介するような形でバックアップできる。

(阿部委員長)

P9 の「静岡市にふさわしい運営形態」の表の前後に P6 の絵を入れてほしい。

(杉山委員)

P10 のイベントは当日参加できない人のことよりも、広報手段としての方が大切なのではないか。

(阿部委員長)

イベントでは自分達と同じ世代が頑張っている様子が感じられるといい。

(鈴木委員)

プレイベントの表現がどうか。

(事務局)

大道芸 W カップのプレイベントと同様、認知されてくれば効果がある。

(遠藤委員)

市が関わるとすると予算上どうなるのか。入場料として千円取るのはどうか。

(加納委員)

自分達の手でやりたいという意識が強い。これまでも先輩を見習って行っていた。プレイベントは被災地への支援もあって今年はやるということだったのではないか。若者がやっていくことの意義、続けていくことの意味合いはその年で違うだろう。

(阿部委員長)

市は会場を予約したり、最低限の枠を守るという役割があると思う。実行委員会でもどんな人物を集めるのかという点で関わってくる。1部2部も市から金は補助が出ないのか運営方法を検討する必要がある。

(遠藤委員)

市は関わってこなくてよいのか。

(阿部委員長)

実行委員の選び方や実行委員会の運営などで市が関わってくると思う。

(鈴木委員)

全部丸投げするのでなくてクッションをおいて市として意見をまとめる。市はいろいろな調整をした後で予算の確保の必要な部分をサポートしていく。今年は震災があったこともあってチャリティをやることになったと思うが、今後どういうふうにしていくかは新しい実行委員会が考えていくべきものではないか。

(遠藤委員)

被災地について言うと清水区へも100数十人来てくれた。

(瀧委員)

若い人達と議論して決めていくのがいい。

(阿部委員長)

平成25年1月の実行員は提言を引き継いでもらいたい。大枠は市が用意する。将来の実行委員はこの提言を理解してほしい。

(青木委員)

提言は大切であり、政策の基本となるものである。P10 プレイベントについては最初から本番の代用ではなく、止むを得ない場合だけプレイベントに参加してもらおうという意味合いにするために、「には」でなく、「でも」に替えれば話が通じる。また P6 の図中、若者と周りの大人との関係を明示するため双方向に→で「相談」「アドバイス」の文言を入れた方がよい。

(鈴木委員)

P10 プレイベントは広報のためかなのか、参加促進のためなのか。当日どうしても参加できないための副産物的なものではないのだろうか。プレイベントの部分は削除してよいのではないか。

(青木委員)

当日どうしても参加できない人がいるのは事実なので表現を変えて残したほうがよい。

(阿部委員長)

P10 プレイベントの開催は P9 の「●実行委員会メンバーに幅広い層の若者の参加」の横の広がり  
の後、プレイベントを入れるのがよい。プレイベントで若者が頑張っている様子を伝えることが意  
義がある。

平成25年1月の式典は合併10年を迎えメディアが飛びつきやすい。提言は文字を12ポイント  
にして読みやすくしてほしい。